

発表会、新入生登校日そして卒業式と行事が続きます。発表会では子どもたちの素晴らしい発表をご覧いただくことができたと考えています。まもなく卒業する6年生とその保護者の皆様には言葉では表現できない感動があったのではないのでしょうか。今、子どもたちの日々の活動において、6年生を送り出す準備と来年度の新入生を迎える準備が同時に進められています。慌ただしい毎日ですが、卒業生には最後の数日間を楽しく過ごしてほしいと思っています。

【子どもの変化】

低学年の子どもも多くは自信に満ち溢れていて、何をしているときも一生懸命さが伝わってきます。目の輝きもさることながら全身の動きが輝いて見えます。反対に、高学年の子どもの中には、何か自信の無いような行動が見られることがあります。この変化は何故起きるのでしょうか。確かに、いろいろな活動を通して、自分自身の力を知り、それなりの判断基準ができていくこともあるでしょうが、私はもう少し子どもらしく、失敗を恐れずに前に進もうとする輝いた子どもたちの姿を見たいと思うことがあります。

子どもたちの意識の中にある「自分はこんなことができる、あんなことができる」という肯定的なものが「自分はこんなことができない、あんなことができない」という否定的なものに変わってくるのは自然なことなのでしょうか。学年が上になってくると、自分と周りの友だちとを比較することもあるでしょうから、自分自身の力を知ることにはあると思います。しかし、そういうときにこそ自信をなくさないで、前向きに物事に取り組む子どもたちになるように、私たちの声かけや支援が適切になされるべきなのではないのでしょうか。

自分がしていることや考えていることが、「そうだね」と周りから肯定的に受け入れられている間は、子どもにはそういう変化は起きにくいはずですが、そうだとすると、友だち、教師、家族という自分の周りにいる人から「ちがうよ」「あなたはだめだね」「何言ってるの」というような言葉をかけられることによって、「自分はだめだな」という気持ちを持つようになってしまうのかもしれない。考えれば考えるほど、私たちの責任は重大なものに思えてきます。

教師の言葉かけが子どもを変えることはよくも悪くも現実にあります。この小学校の子どもたちは非常に素直ですから自分がかげられた言葉をしっかりと受け止めてくれます。素直な心にはプラス、マイナスのどちらの言葉も深く刻まれるだけに適切な言葉かけが一層求められます。

【新入生登校】

3月3日に新入生の登校日がありました。教室に案内されてお行儀よく座っている子もいれば、教室の掲示物を見て、「水曜日は英語があるんだね。ぼくりんごを英語で言えるよ。」などと話してくれる子もいました。小学校ってどんなところなのかな?などと思いながら4月の入学を待ち遠しく思っていてくれるようでした。子どもたちとは別に保護者の方々にはひかりホールに集まっていたいただきお話をさせていただきました。その中で、以下のような内容のプリントを配付しましたので、在校生の保護者の皆様にもお読みいただきたいと思い、ここに書かせていただきます。

保護者の皆さんへ「子どもが安全に楽しく学校生活を送るために」

1 登下校時

家庭から栗平駅までの安全とマナーの指導は保護者が責任を持って行いましょう。

自宅から最寄り駅までの間に危険な所がないか確認しましょう。

2 家庭では

早寝、早起き、朝ごはんの習慣を身につけさせましょう。たくさん話しかけましょう。

他の子と比較することはやめましょう。褒美で子どもに頑張りを促すことはやめましょう。

子どもが努力したり、自分でいろいろな工夫をしたりしているときは、その場面を見逃さずにほめましょう。

叱るときは子どもが自分のどんないけないところが叱られているのかははっきり分かるようにしましょう。

子どもが不安になるようなことは言わないようにしましょう。

子どもは必ず成長するという気持ちと願いをもって、自分の子も他の子も温かく見守りましょう。

単語だけの会話をやめて、しっかりと気持ちの表現を言葉でさせるようにしましょう。

3 学校と連携

問題や疑問が生じたときはまずは担当の教員に相談しましょう。

子どもの言い分だけを鵜呑みにしないで「うちの子はこう言っていますが、どうなのでしょう?」という言い方ができる心のゆとりを持ちましょう。